修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

関修委設立10年を迎え

記念式と研究会

功労者表彰、講演も

11月22日　千葉柏中でひらく

関東地区中学校修学旅行委員会（高橋俊麿会長）が発足してことしは満十年。設立いらい全修協をはじめ運輸省、国鉄、各県の教育委員会、校長会などの指導と援助のもとに中学校生徒の修学旅行が安全快適に、またすぐれた効果をあげられるよう絶えず活発な活動を続けている。

設立十年を迎えるにあたって同委員会では十一月二十二日午前十時から千葉県柏市の柏中学校で全修協、千葉県中学校長会、柏市教育委員会後援のもとに記念式典と研究集会をひらく。

記念式では同委員会の設立と運営に貢献した功労者に感謝状と記念品がおくられたあと、国学院大学教授文学博士樋口清之氏の〝歴史の真実〟と題する記念講演がある。

午後からの研究協議は①より効果的な修学旅行についてのテーマで柏中学校の「見学コースを生徒に選択させる修学旅行の計画と実践について」発表があり、②「修学旅行の引率旅費負担の現状と公費負担への道」について高田福松氏（関修委運営委員長・埼玉県中学校修学旅行委員長・幸手中学校長）が各県の実例をあげて協議を行ない午後三時閉会する。

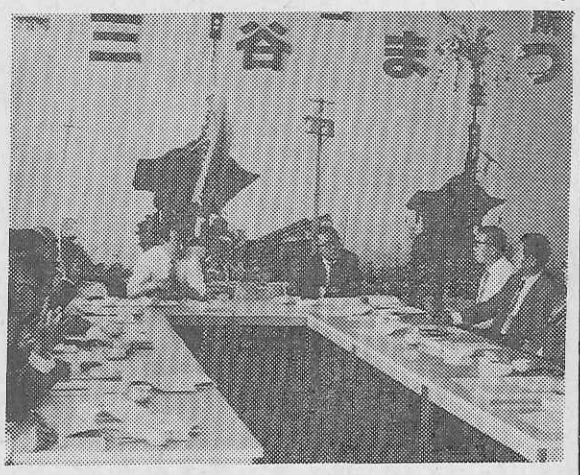
引率旅費の獲得へ

三地区　修旅委連絡協で

関東、東海、近畿三地区公立中学校修学旅行連絡協議会（久保田八郎会長）の第二回協議会は十月二十、二十一の両日、愛知県蒲郡市三谷町で開催、関東地区から高田福松（埼玉）荒幡義輔（同）大越鬼子男（栃木）高橋武司（千葉）介川容介（茨城）、東海地区から桜井敬一（愛知）中西良一（三重）、近畿地区から久保田八郎（大阪）斉藤武人（兵庫）八木伊佐美（京都）氏らのほか顧問の全修協山本種一理事長、全修協事務局長白滝末紀、同研究部長岩崎武夫、同大阪事務所長小西惣一郎、同名古屋分室長鬼頭藤松氏らも出席した。

「修学旅行関係予算について要望する件」では①要保護、準要保護児童生徒にたいする修学旅行費の補助金は文部省の要求額どおり獲得するよう関係方面へ陳情することになり陳情文など原案どおり決定、②引率教職員の修学旅行付添いの旅費日当は当然公費から支給されるべきだが、都道府県によって格差がありすぎる。全組織を通して調査を行なって実態をつかみ、早急に運動を開始する。

また修学旅行の国鉄運賃割引率の引きあげ、新幹線など特急料金の全免についても全修協と呼応して推進することを決めた。



三地区修旅連絡協の第2回協議会（蒲郡市三谷町）

乾会長を再選

【大阪】あおぞら号近畿運営協議会では十一月二日午前十時から大阪市天王寺区上本町のグリル近鉄で乾会長をはじめ全役員のほか全修協の山本理事長も出席して協議会を開催した。乾会長、全修協山本理事長挨拶のあと協議にはいり、四十六年度近畿学童共済会の会計報告承認につづいて四十七年度の役員を選出した。

【会長】乾英三郎（大阪市立南大江小校長）【特別委員】北野勝（元大阪市立堂島小校長）【常任委員】神田嘉逸（吹田市立吹田一小校長）太田清治（生駒市立生駒台小校長）松本一男（神戸市立神戸小校長）西岡権治郎（全修協大阪支部長）河野一欣（近鉄鉄道総局上本町営業高運輸部長）【委員】福本吾之助（大阪府泉南郡尾崎小校長）赤松善雄（大阪市立三軒家西小校長）垣内利夫（豊中市立大池小校長）吉田米造（大阪市立上福島小校長）坂本学（奈良市立飛鳥小校長）清水弘（大和高田市立片塩小校長）岡田優（大和郡山市立郡山南小校長）吉俣武雄（神戸市立本庄小校長）竹谷哲郎（伊丹市立伊丹小校長）桑井知（尼崎市立立花小校長）米原昇（近鉄鉄道総局業務局営業企画部長）伊藤薫（近鉄鉄道総局業務局営業企画部課長）【委員・会計】井戸泰雄（大阪市立堀江小校長）【委員・監査】川淵勝男（奈良市立椿井小校長）村上賢三（西宮市立甲東小校長）【事務主幹】日下部文夫（近鉄鉄道総局上本町営業局運輸部営業課長）小西惣二郎（全修協大阪事務所長）＝以上敬称略。

風紋

日本列島改造論の序文で、田中角栄氏は「都市人口の急増は、ウサギを追う山もなく、小ブナを釣る川もない大都会の小さなアパートがただひとつの故郷という人をふやした。これでは日本民族のすぐれた資質、伝統を次の時代へとつないでいくのも困難となろう」といった▼同感だ。民族が亡びてしまっては、何のGNPぞやである。すべては民族の生存と発展のための改造でなければならない。いうところの日本列島改造論は三つの柩から構成されており、第一は工業再配置、第二は高速輸送体系、第三は大都市再開発であるというが、新幹線と高速道路のネットワークがその軸心であることは、言をまたない▼走りだしてから八年間に五億人余の輸送を達成した新幹線が、西へ東へ、北へ南へと伸びて、全国が一日行動圏に再編成されるとき、日本列島の改造と日本民族の生活改造が具体的なスケジュールにのる▼わが国は根室から鹿児島まで、鉄道が三、〇〇〇キロ東京は、その中央に位置する。首都の両側に一、五〇〇キロの鉄道をもつ国は少なく、この細長い国土に一億余の人口がひしめいているから、当然長距離高密度の輸送力が必要となり、これなしには経済生産も文化教育も、今日の進歩を見ることができなかったであろう▼日本が世界の最先端をいく鉄道先進国として、百年の歴史を背景に新幹線をつくりだし、また近代教育百年の歩みの中に、修学旅行という教育形態を発想し、鉄道をひとつの大きな教育機器として、国土学習を大規模かつ組織的に行なってきたことも、日本の地形がその必要を生ませたものかもしれない▼新幹線は単に輸送手段の革新であるばかりでなく、国民生活の流れを変える動因として経験されなければならない。公教育における鉄道運賃料金を、国が負担するのが正しいとする根拠の一つはここにある。

国鉄の来年度

修学旅行の輸送

優等列車へ移る傾向

竹鼻照雄

一、修学旅行の一般的傾向

国鉄利用の学生団体は、ここ数年らい横ばい傾向を示し、昭和四十六年度の実績では、年間約九百万人という数字になっている。この学生団体のなかには、小学生の遠足や、クラス単位の旅行まで含まれているので、このうち、修学旅行の実績はどの程度かというと、正確には判別することは難かしい。しかし、概算すると少くとも二百五十万人ていどの修学旅行生徒を国鉄は輸送していると想定している。

一方、バスや船利用の修学旅行全体の数は、年間約一千万人といわれているので、修学旅行輸送における国鉄のシェアーは、少なくとも二五％以上であるといえよう。

次に、利用列車の傾向をみると、まず、優等列車の利用希望が多くなったことがあげられる。

とくに、東海道線経由の修学旅行は、その大部分が新幹線利用となっており、四十八年には、その数は約九十万人にもおよぶと予想される。このうち特筆されるものは、小学校の新幹線利用が多くなってきたことがあげられる。とくに、北海道高校連合や、東北高校連合にこの傾向が強く、東京の私立高校はもとより、公立高校までが、特急および寝台利用を希望していることがとくに目立ってきている。

学校の目的地の変化ということで目につく地区は、関西の中学校で、信州旅行の希望が多くなってきたことである。

関西中学生は、従来そのほとんどが関東旅行を行なってきて線を利用しての修学旅行で、岡山延長によって、新たに新幹線利用となった岡山県小学連合と、東京見学を新幹線で行なう静岡県小学連合がこれである。

その他の傾向として、長距離旅行を行なう高校の修学旅行の場合は、特急および寝台希望が近かな土地となってきていることを示しているといえよう。四十八年春の信州方面の修学旅行専用列車利用希望は、約七万人となっている。

二、修学旅行専用列車の利用傾向

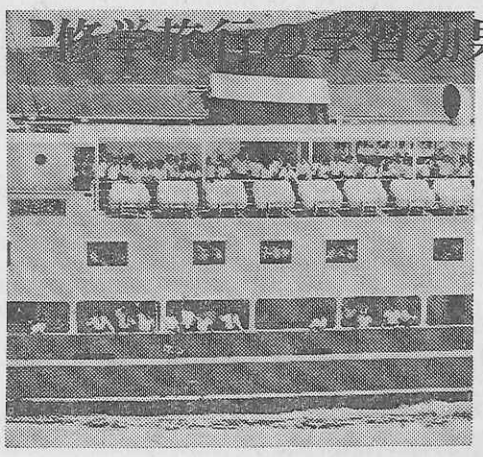
国鉄の修学旅行専用列車利用人員は、昭和三十九年には百八十四万人であり、全修学旅行人員（バスなども含む）一千万人に対し、一八％を占めていたが、その後減少の一途をたどり、現在では一三％程度の百三十万人ほどを占めているにすぎない。これは、国鉄の定期列車利用が増えていることとも原因があると思われる。

しかしながら、これらの専用列車利用のうち、その半数以上が新幹線を利用しているので、今後、博多へ新幹線が延びた時点、あるいは盛岡、新潟まで延びた時点を考えると、新幹線利用の集約輸送の実績は、ますます上がるものと予想され、大げさにいえば、国鉄利用の修学旅行は、その大部分が、新幹線利用となる時代が必ずくるといえよう。

また、現在、他の輸送機関を利用していた学校も、全国に新幹線網が完成した時点では、その目的地も、より遠い所を選ぶようになり、国鉄の修学旅行輸送も、年間一千万人という時代が来る可能性もないとはいえないと思われる。

昭和四十八年の修学旅行は、一口でいえば、この新幹線時代へのワン・ステップとしてのスピードと快適性を求める傾向にあり、二年後の博多開業への飛躍を内に秘めた年であるといえよう。

（国鉄旅客局営業課）



修学旅行の学習効果向上のために

全船冷暖房完備の修学旅行専用船

わかば丸・ふたば丸

旅客定員805名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！

関西汽船

●お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

充実した修学旅行

ツーリストをお役立てください
ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として“修学旅行映画”シリーズを製作しております。
●修学旅行映画シリーズ
京都の庭園　富士箱根　日光　大和の国なか
大和の塔　火とみどりの国　瀬戸内海
みちのく　大和の道　大和の石　京都の川
（いずれも文部省選定、16ミリカラー、上映時間25～40分です）

電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」
近畿日本ツーリスト

1月3日に出発

沖縄研修旅行

春は3コース

全修協　地区会議で決る

（財）全修協の地区会議は十月二十四日東北、同二十七日関東、同三十一日東海・北陸、十一月十四日九州、同十六日中四国ごとにそれぞれ開催され、各地区とも山本理事長のあいさつ、白濱事務局長の経過報告につづいて協議事項として第一号議案「昭和四十八年度研修旅行の実施計画」①四十七年度研修旅行の総括②四十八年度研修旅行実施計画案策定の基本③四十八年度研修旅行実施計画④募集活動の強化⑤その他を協議した結果、原案通り決定した。

冬季の研修旅行は沖縄の本土復帰を記念して全国教職員互助団体協議会と共催で〝沖縄コース〟を春季は三月二十五日（九州地区は前日発）から「南近江と飛鳥大和路」「春暖の四国」「早春の九州」の三コース。

夏季は十二コースのほか日教組の第十次教育事情視察団や韓国史跡研修旅行など多彩なコースが予定されている。冬季の沖縄コースはつぎの通り。

【定員】各国四十名。

【会費】東京七万八百円。大阪六万二千円。福岡五万一千四百円。

【締切り】四十七年十二月十五日（満員になりしだい締切り）

【コース】第一日＝一月三日（水）①東京（九・〇〇）―那覇（一一・四〇）②大阪（一一・〇〇）―那覇（一三・〇五）③福岡（一四・〇〇）―那覇（一五・三五）＝糸満＝白樺の塔＝健児の塔＝県庁＝首里城跡＝博物館＝漆器工場＝那覇（泊）夜は琉球舞踊と琉球料理の会食。

（第二日）＝一月四日（木）那覇＝平和観音慰霊塔＝中城城跡＝嘉手納＝万座毛＝パイン・バナナ園＝明治山道＝金武観音＝コザ市＝泡瀬ショッピング・センター＝那覇（泊）夜は沖縄県教職員と交流懇談会開催。

（第三日）＝一月五日（金）那覇―（自由行動）＝①那覇空港（一一・一五）＝東京（一三・二五）②那覇空港（一三・四〇）―大阪（一五・二五）③那覇空港（一一・三〇）―福岡（一三・〇〇）＝写真は福島・飯坂の東北地区会議の会場。

推薦に嶋根、三橋氏

研修旅行写真コンクール

北海道知事賞　中野、山田氏が獲得

本年度教職員研修旅行の写真コンクールはカラー三百九十九点、白黒二百十一点の計六百十点に達し、昨年度を上回わる好成績を示した。審査委員会で数時間にわたる審査の結果、推せん（二名）特選（二名）入選（四名）佳作（三十名）北海道知事賞（二名）＝カラー、白黒とも＝を次のとおり決定した。（敬称略）

カラーの部

▽推せん

「霧の山頂」嶋根久（茨城県久慈郡金砂郷村久米・太田一高）

▽特選

「尾瀬の朝」山下政義（京都府舞鶴市字市場六〇）

▽入選

「上瀞」清水義弘（北海道夕張郡天沼町市街・長沼中央小）

「羊が丘」岡田美恵子（東京都荒川区東尾久五―八―二）

▽佳作

「港」奥山佳子（山梨県山梨市下神内川一、〇〇二・あけぼの学園）「こんぶとり」岡田安和（兵庫県三木市志染町東吉田九五・三木中）「母馬子馬」東楠次（三重県北牟婁郡南紀伊長島町・海野中）「洞爺湖にて」山田照夫（愛知県渥美郡田原町八軒家三―九・野田小）「岩の美」山田マサイ（新潟県上越市西城町二―九―三）「阿蘇の噴火口」村上九四郎（栃木県那須郡西那須野町下永田区・矢板中央高）「陸中海岸」疋田正雄（愛知県香美郡香北町猪野々教員住宅・猪野々小）「原生花園」加藤ユキ（東京都練馬区高橋一―二―一二）「見残しのおささ子さん」吉岡美知子（東京都練馬区富士見台四―五―一四・南光幼）「SL原生花園を行く」本庄禎真（長崎県南松浦郡有川町七四六・崎浦中）「旅の夢」長岡郁子（三重県多気郡明和町明星三六四・豊浜西小）「北海道の玄関」藤岡順一（滋賀県甲賀町大字滝八六四・貴生川小）「塔台山」田辺正男（滋賀県坂田郡米原町下多良三二四・伊香高）「硫黄山にて」斉藤せつ子（埼玉県桶川市東二―六―七・日進北小）「洞爺湖」高野一重（東京都杉並区松庵一―一三―一七・武蔵野三小）

▽北海道知事賞

「霧の洞爺湖」中野保太郎（京都府福知山市北岡（南陵中）

白黒の部

▽推せん

「真珠養殖」三橋　保子（山梨県都留市上谷三六一・文科大付小）

▽特選

「オランダ塀」本田猪三郎（静岡県浜松市広沢一―二四―二・静岡大）

▽入選

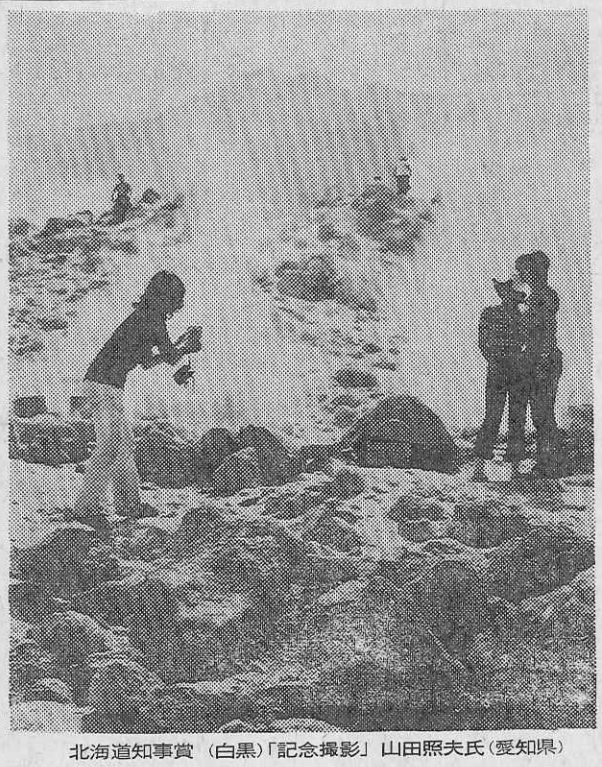
「奥入瀬川」帆足篤治（福岡県嘉穂郡穂波町忠隈二一一・東住吉中）「雲上の富士」三橋真次（山梨県都留市上谷三六一）

▽佳作

「羊牧場にて」山田照夫（愛知県渥美郡田原町八軒家三―九・野田小）「国境の岬」横井三夫（茨城県結城市見晴町六一〇〇・古河二高）「納沙布」横井三夫（茨城県結城市見晴町六一〇〇・古河二高）「知床の犬」同上「天守閣」本田猪三郎（静岡県浜松市広沢一―二四―二・静岡大）「錦帯橋にて」新井昭（千葉市あやめ台団地二―九―一〇三）「蔵王のお釜」村野充郎（静岡県藤枝市志太一九七・静岡学園）「雲湧く」同上「先生の野外学習」尾崎進（和歌山県日高郡南部町七九・田辺一小）「お土産」帆足篤治（福岡県嘉穂郡穂波町忠隈二二一・東住吉中）「彩林」同上五台堂」同上「平戸へ帰る」三橋真次（山梨県都留市上谷三六一）「オランダ塀」三橋実（山梨県都留郡上谷三六一・西桂中）「青島にて」三橋直幸（山梨県都留市上谷三六一）

▽北海道知事賞

「記念撮影」山田照夫（愛知県渥美郡田原町八軒家三―九・野田小）



北海道知事賞（白黒）「記念撮影」山田照夫氏（愛知県）

北海道知事賞（カラー）「霧の洞爺湖」中野保太郎氏（京都府）

総評

「北海道コース」参加者からの応募作品が多かったのは、やはりメーン・コースであるためもあろうが、この広大な地域を被写体とするばあい、いろいろな注意が必要である。

先ず〝何をとらえるか〟で、いかかえれば、いかにポイントをつかまえることかである。また、晴天ばかりでなく、あらゆる天候の場合を考えることも必要であってとくに曇天のときの露出は研究を要したいもの。

ポート・レート的というか、記念写真的な作品が相当見受けられたが、これらは必ずしも悪くはないし、それが徹底的に記念写真であればよい。要するに中途半端な作品は不可といいたい。

応募作品は規定以外のもの、たとえば「キャビネ以上」となっているのに、サービス判などがたくさんあった。審査のうえで困難であるし、作品も映えないため、ぜひ規定を守っていただきたい。また裏面には私製でもよいから必ず応募票を貼ること。直接ペンなどで書いてあるのはいけない。

概してカラーよりも白黒作品のほうがカメラ・アングルにかけてはすぐれたものが多かった。またトレーミングによっては、さらによいものになったであろうと思われる作品もあったが、自分で引伸しの作業をせず、写真屋にまかすのが実情だからいたしかたがなかろう。

印画紙は三号を使ったものが多かったが、番号の少ないものほどソフトに仕上るので覚えておいたほうが便利だと思う。

カラーの部

▼推せん

「霧の山頂」嶋根久氏。

抒情味をたたえた作品。ただ〝山頂〟というよりも〝展望台〟という感じになったのが残念であった。また人物は中央に置かず、左寄りにすればいっそう効果をあげたであろうと惜しまれる。

▽特選

「尾瀬の朝」山下政義氏。

構図はよかった。朝の感じは出ているが、もっと強調したほうがよい。それにはコントラストが強いので太陽をかくせばよかった。もすこし左側からカメラを向け、右端をカットしたらと欲が出る。

▽入選

「上瀞」清水義弘氏。

ごくありふれた風景で絵はがき的になりやすいが、よく踏み留まったと思われる作品である。水の色はよく出ている。ただ、アクセントが欲しいところだ。トレーミングも一と工夫を。

▽入選

「羊が丘」岡田美恵子氏。

色調がすばらしい。欲をいうならヒツジに近づいて撮影すればもっとよい作品になったろうと惜しまれる。

▽北海道知事賞

「霧の洞爺湖」中野保太郎氏。

墨画的である。静けさをよく表表していることがよい。船のポジションも効果的である。まとまっている点も入賞のきっかけとなった。ただ粒子が荒く、青味の多いのが残念だった。

白黒の部

▽推せん

「真珠養殖」三橋保子氏。

色のバランスがとれて、まとまった作品である。カメラの位置もよいが、横ながの仕上げは不必要だった。引き伸しの焼付けに一とくふうありたい。

▽特選

「オランダ塀」本田猪三郎氏。

〝塀〟がテーマなのだから、もっとクローズ・アップすればよかった。散漫となって、題名を読むまでわからない。焼きすぎで、色のあかりの悪いのが残念だった。

▽入選

「奥入瀬川」帆足篤治氏。

逆光で撮っていて効果をあげているが、引伸しが堅すぎ、水などの質感が失われ勝ちな点を考えたい。

「雲上の富士」三橋真次氏。

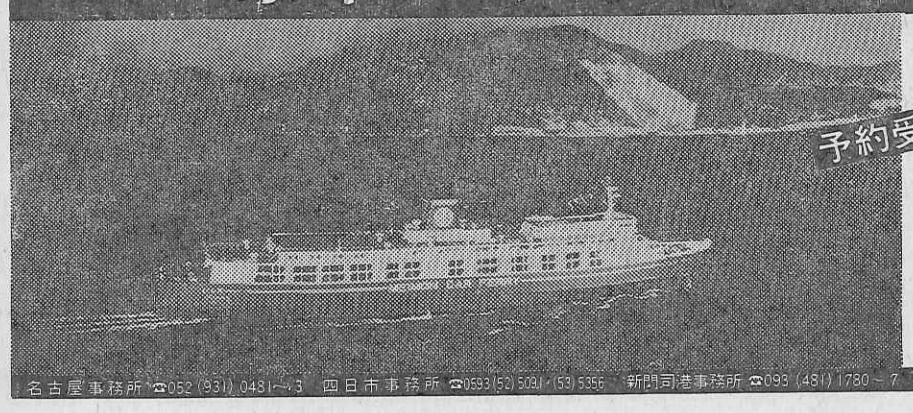
赤外線フィルムで飛行機から富士山を撮影した作品。ただ引き伸しの点で少し損をしている。雲だけがシャープで、ほかがぼけてしまった。印画紙の選択と焼付に注意すればよかったと思う。

▽北海道知事賞

「記念撮影」山田照夫氏。

いわゆる記念写真だが、人物の動きもあり、人物の表情のとらえかたもよく、なかなか印象的なのが特徴といえよう。硫黄山の雰囲気もよく出ているし、研修旅行風景としては申し分がない。ピントもよく合っており、逆光線をよく利用しているあたり、すばらしい手腕だと思う。

豪華フェリーで思い出の修学旅行に！



予約受付中

●船舶概要　旅客　594人
設備　冷暖房完備、レストラン、ラウンジ、ゲームコーナー、売店、浴室、公衆電話、VTR等

48年3月より就航
新門司―瀬戸内航路14時間―大阪（南港）
黒潮航路20時間―四日市―名古屋
就航中

名門カーフェリー
本社　京都市中京区新町通四条上ル　☎075(221)7747～8

名古屋事務所☎052(931)0481～3　四日市事務所☎0593(52)5091・(53)5356　新門司港事務所☎093(481)1780～7　小倉営業所☎093(551)0782・0793　東京事務所☎03(212)1546～7　川崎営業所☎044(32)3726